

しゃくじい 石神井池 水辺 しんぶん

No.4

2022年11月

登録番号(5)

発行

東京都東部公園緑地事務所
<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/toubuk/index.html>

編集

認定NPO法人 生態工房
<https://www.eco-works.gr.jp/>

今年もいっぱい産まれたよ

カイツブリ にぎわう！ 石神井池

石神井池では2021年1月から3月に池の水を抜くかいぼりを行い、オオクチバスやブルーギルなどの外来魚を駆除しました。かいぼりの効果により、同年の春には小型の在来魚やエビが増加。それらを食物とするカイツブリが子育てしやすい状況になりました。カイツブリの繁殖つがい数は、かいぼり前までは2つがい程度で推移していましたが、2021年には5つがいに増加。2022年は6つがいの巣から計20羽のヒナが誕生し、都内でも有数の繁殖地となっています。カイツブリは広い池や、流れのゆるやかな川に生息します。本来は普通種ですが、水辺の減少、営巣場所となる水草帯の消失、外来魚の影響による食物の減少などによって生息数が減っており、東京都レッドリストでは「準絶滅危惧」に選定されています。石神井池でのカイツブリの繁殖数の増加は、東京全体のカイツブリの保全にとっても意義のあることです。

ただし気がかりなのは、かいぼりで外来魚をすべて駆除できたわけではないこと。かいぼり後に、オオクチバスやブルーギルの繁殖が確認されています。外来魚が再び増加す



生まれて間もないヒナは親鳥の背中に潜り込む。何とも言えない愛らしさだ。

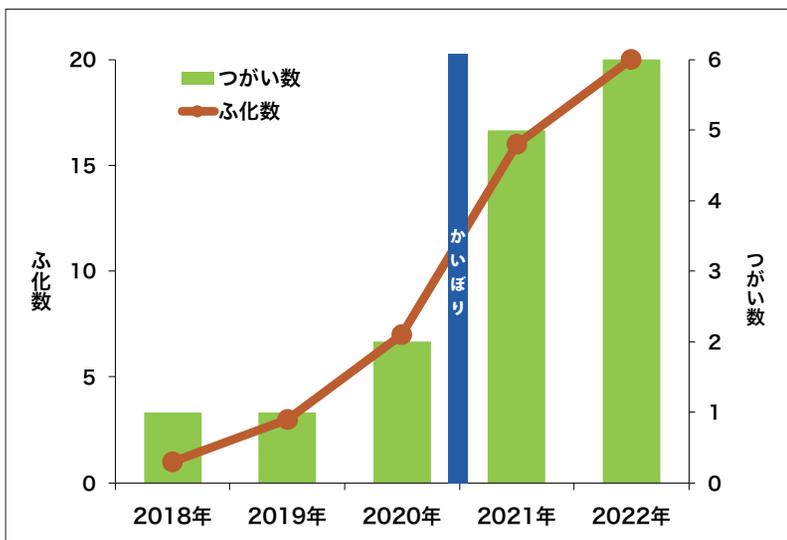


図. 石神井池のカイツブリ営巣数の推移

ば、在来種の魚やエビが減少し、カイツブリにも影響が及ぶと考えられます。引き続きモニタリングと外来種対策に取り組んでいく必要があります。



自分で採食できるまでに成長すると、親鳥から自立を促され、別の水辺へ移動していく。

しゃくじい自然図鑑

名前に台湾と付いていますが在来種のトンボ。西南日本に生息していました。近年、東日本に分布が広がってきました。水面への見晴らしがよい枝や葉にとまり、他のトンボが近づくと追い払います。石神井公園では夏に少数が観察されています。

(2022年8月)



台湾ウチワヤンマ

ピックアップ! News

キシノウブ駆除中!

観賞用に栽培されているキシノウブは、旺盛な繁殖力で水辺に広がって在来植物の生育場所を奪っていることから、生態系被害防止外来種リストで重点対策外来種に選定されています。石神井公園でも、貴重な湿生植物を保全するためにキシノウブ駆除が行われており、三宝寺池ではキシノウブがほぼ見られなくなっています。石神井池でも、かいぼり後の2021年から公園管理者や地域団体の協働によるキシノウブ駆除が始まりました。月1回、

池畔のキシノウブを抜き取っているほか、作業イベントも開催し、作業を実施した範囲は池周囲の半分以上に達しています。キシノウブは一度抜き取っても地下茎の断片や種子からまた生えてくるので、繰り返し取り除いて作業効果を高めています。キシノウブを抜いた湿地では、カルガモやコサギが採食している様子を見かけることもあります。作業直後にはよく飛来しているので注目してみてください。

観賞魚、水草、カメ・・・池に持ち込まないで!

かいぼりで外来魚を駆除した石神井池で、新たな外来魚が相次いで見つかっています。とくに目立っているのがニシキゴイ。園路から見えることもあり、なぜコイがいるの?という来園者の声も聞かれます。これまでに10匹程度が捕まったほか、持ち込まれてすぐに死んでいたものもあります。

タイリクバラタナゴも新たに見つかりました。観賞魚として販売されている小魚ですが、各地の池や水路に釣り目的で放されることがあります。生態系被害防止外来種リストでは重点対策外来種に選定されています。



大型のコイ



アマゾンチカガミ

水草のアマゾンチカガミとオオカナダモ(どちらも重点対策外来種)も複数回、まとまった量が池に投げ込まれていました。こうした外来種の持ち込みは、かいぼりをはじめとする環境保全の取組を台無しにしてしまいます。またコイの放流は、コイヘルペスウイルス蔓延防止の観点からも禁止されています。放流行為などを目撃した場合には東京都または公園サービスセンターに連絡してください。



昨年に除去したところから再び伸長した株を除去。1度手をつけているので抜きやすい!



2時間の成果!